

民法第二条修正案ニ対スル意見

| | |
|-----|---|
| 発行年 | 1910 |
| URL | http://hdl.handle.net/10114/534 |

民法第三條修正案之新意見
結言

外務省

民ノ権利ヲ侵害スル事ハ法律ニ依リテ行ハレ得ル限ニ
止ルモ外國人ニ此等ノ權利ヲ附與セサルコトヲ明言セリ

我國現行法令ハ斯ル如ク外國人ニ私權ヲ附與セザルモ其
中ニ於テ立派ノ定例トモモ拘ラズ外國人ニ私權ヲ附與
スル場合ニ於テ敢テ特別ノ明文ヲ以テ之ヲ規定スルコト無
シ我國現行法令外國人ハ條約國人タルト無條約國人タルト同
以上ノ禁止ヲ除ク外各種ノ動産ヲ占有スル者ハ之等ノ定例
ニ準リ法律行為ニ同リ私權債權ヲ取得シ動産債權ノ先取特
權ヲ享有シ動産債權使用貸借債權貸借ヲ爲スルコトヲ私
判ヲ享有スルハ論議勿論民事タルト商事タルト問ハズ凡
ソ合括ノ契約ニ依リテ私權ヲ得佐助ヲ負ヒ不當ノ利得ノ不
ノ行為ニ依リテ之ヲ我等ヲ負担スルコトハ敢テ外國人ト異ナル所
無キノミナラズ人事上親族上ノ關係ニ就テモ亦外國人

夫外務省

此見解ニ基キ

ト同シク婚姻ヲ禁ジ子孫ヲ養育シ親權父權ヲ行フコトヲ得
ルハ何人モ信ヒテ疑ハサル所ナリ是ニ依リテ之ヲ觀ルハ我
國現行法令ハ特別ノ禁止又ハ制限無キ以上外國人モ内國人ト
等シク私權ヲ享有スルルテ原則トスルコトヲ知ニ足ルベシ民
法第百條ニ於テ私權ハ享有スル規定ニ當リ外國人ハ法令又ハ
條約ニ禁止スル場合ヲ除ケ外私權ヲ享有スル規定セザル唯
代用現行法令ノ原則ヲ明示シタルニ過ぎキコトヲ侵モ侵事ノ
立法主義ヲ變更セシモノニ非サルナリ

或ハ我國現行ノ法令ハ外國人ノ權利ハ現行條約ニ於テ明
許シタルモノニ止ムルヲ原則ニテ成案ト爲リシモノニシテ外國
人ノ權利ヲ禁止スル法令ハ唯タ心得得・無條約國意ノ爲メ
規定セシノミト論ズル者アリト見エ現行法令ノ明文ヲ無
視シテ事實ヲ認ムル言ナリ何トシハ二前掲ノ禁止法

外人の地所（領土）

中特リ明後五年ノ内地所有權禁止ノハ得道無之諒布告セ
ラシムル如クト馬ニ其他ノ禁止法ハ皆法令ヲ持テ外人ノ權
利ヲ制限スルノ至意ニ出テタル規定ニシテ注意ノ為メ既存ノ
禁止ヲ再言明スルノ至意ニ非サルコトハ法文ヲ一見シテ
明カナルノミナラズ明後三十二年旧民法人專斷發布以後
ニ制定セラルタル多數ノ許モノ禁止の規定ハ皆人專斷
第四條（即チ民法）ニ係リ同一規定ニ基キノ精神ニ基キ特
ニ此第一ノ權ヲ禁止スルコトヲ明言セル規定ニシテ然レ如キ
禁止又ハ場合ヲ除クハ外所有權ヲ享有スル原則ニ成ル者
リシコトハ何人ト爲テ否認スルコトヲ得サル事實ナレハナリ
若シ夫レ論者ノ所説ニ莫クシメカ（即チ民法）者ノ重要視セル
此第一ノ禁止の規定ハ皆無要ノ冗文ナリ現テ外人ノ享有
有セル權ヲ一々認許スルコトヲ規定セサルハ我國憲法ノ一大
缺點ト云ハサルヲ得サルニ至ルハ豈ニ斯ノ事理ヲラニヤ

色
外務省

第一章 民法第三條ト條約トノ關係

安政五箇年現行條約締結ノ當時ハ先ヅ鎖國據
康復盛ニシテ國威ノ重キを以テ外人ノ權利ヲ以テ存
トセシ故ニ條約中直接條約外人ノ條約ノ認許セシ權利
ノミナラズ月ニ在ル規定セサル權利ノ之ヲ禁止スルモノト
解釋スル者多數ヲ失墜スルハハト爲テ改正條約ノ規定セ
外人ノ權利ハ外人カ此國法令ニ從テ享有スルヲ權利ノ
權限ナルニ過ラス

安政五箇年締結セラルル現行條約ハ條約禁止ニ歸セシムルカ改正
條約ヲ論セテ改正條約ヲ始メ列國間ノ勸告等條約ニ從
テ外人ノ享有スルヲ權利ヲ概括的ニ規定セル所以ハ外國

ルカ政ニ條約
至要ニ權利ヲ享
有スルコトヲ條約
ニ據保ニ立ス

人ノ條約ノ規定ハ非ズル權ヲ享有スルコトヲ得サレカ爲
メニアルニテ外國人カ内國權ニ立ニ於テ享有スル權利ヲ損
保セシカ爲メナリ即チ一國ノ立法者ハ條約上ニ據保セサル權利
ニ付テハ何時ニテモ自由ニテ禁止スルコトヲ得ル條約上ニ據
保セサル權利ハ内國ノ法ニテ之ヲ禁止スルコトヲ得ル條約上ニテ
外國人權利ハ本國ト同一條約上ニ據保スルコトヲ得ル條約上ニ
條約ヲ以テ之ヲ損保スルコトハ將軍重立法ノ自由ヲ拘束スル
不便アリカ故ニ外交ノ局ニ當ル者ハ効メテ各條約上ニ外國人ノ
權利ヲ損保スルコトヲ避ケルコトヲ期スト莫キ條約ノ規定無
キノ事ヲ咎直ニ之ヲ禁止スルコトナリト連致スルコトヲ得サ
レカハ一ノミヤラス立法者カ禁止ノ自由ヲ有スル内國法ニ
テ以テ條約上ニ據保セサル權利ヲ外國人ニ附與スルコトモ莫キ
條約締結ノ精神ニ相稱セサルナリ知レハ我國現行條約ハ我國

外務省

民ノ條約國ニ於ケル權利ヲ規定セサルハ我國民ハ諸政不列
國ニ於テ法令ニ禁止セハ場合ニ降クノ外梅エ内國ト同一ノ私
權ヲ享有ト英伊條約ノ如キモ我國改正條約等ニ外
國ノ享有スル權利列挙セサル權利ヲ享有スル規定セ
條約外ノ外國ノ内國ト同一ノ私權ヲ享有スル規定セ
ルカ故ニ英國人カ伊國ニ於テ内國ト同一ノ私權ヲ享有スル條
約ヲ損保サキ我國民カ伊國ニ於テ伊國人(英國人ト同一ノ
私權ヲ享有スル條約ノ規定ニ依ル私權)ニテ
規定ニ依リテ享有スルナリ伊國ニ於テハ日英兩國
人ノ權利ノ差別ハ唯々英國人ノ條約ノ損保スル權利ニ付
テ伊國ニ於テ者ヨリ禁止セシムル要ナキ理ヤ我國民ノ條約
損保ヲ有スルカ故ニ現今享有スル權利ニモ損保スル其
止マらんハトアルハキ危險ヲ負担セハ點ニ存スル迄亞列國

品々箇々
權利ハ

第四 民地正條修正案、缺點

外務省

外務省

外務省

外務省

明治三十二年
九月
外務省
事務